



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社マツキヨココカラ&カンパニー

コード番号 3088 URL <https://www.matsukiyococokara.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 清雄

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員グループ管理統括財務戦略室長 (氏名) 西田 浩 (TEL) 03-6845-0005

配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日~2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期第3四半期	839,340	4.7	81,644	4.0	64,247	4.2	67,807	4.5	42,589	3.3
2025年3月期第3四半期	801,520	4.0	78,487	5.3	61,654	4.9	64,918	4.0	41,219	△2.5

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 44,377百万円(8.2%) 2025年3月期第3四半期 41,002百万円(4.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	106.79	106.76
2025年3月期第3四半期	100.51	100.48

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費及びのれん償却額

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年3月期第3四半期	736,194	530,384	71.9	1,330.62
2025年3月期	712,780	521,499	73.1	1,290.38

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 529,486百万円 2025年3月期 520,754百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	21.00	-	23.00	44.00
2026年3月期	-	24.00	-	-	-
2026年3月期(予想)	-	-	-	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100,000	3.6	108,500	3.6	85,500	4.2	89,500	3.7	56,500	3.3	141.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 有
新規 2社 (社名) MATSUMOTO KIYOSHI (HK) CO., LIMITED 、 除外 1社 (社名) 株式会社新生堂薬局

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年3月期3Q	410,275,830株	2025年3月期	415,675,630株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	12,349,442株	2025年3月期	12,107,808株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年3月期3Q	398,802,012株	2025年3月期3Q	410,097,370株

(注) 期末自己株式数には、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が保有する当社株式(2026年3月期3Q 662,640株、2025年3月期 392,896株)が含まれております。また、「役員報酬BIP信託口」及び「株式付与ESOP信託口」が保有する当社株式を、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、業績予想に関する事項につきましては、添付資料の4ページをご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結貸借対照表関係)	9
(四半期連結損益計算書関係)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等)	10
(企業結合等関係)	12
(収益認識関係)	13
(重要な後発事象)	13
3. 補足情報	14
売上及び仕入の状況	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2025年4月1日~2025年12月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善により、景気は緩やかに回復しておりますが、地政学リスクの高まり、金融資本市場の変動等、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

ドラッグストア業界においても、業種・業態を越えた競合企業の新規出店、商圏拡大に向けた新たなエリアへの侵攻、M&Aによる規模拡大、同質化する異業種との競争、それらが要因となる狭小商圏化など、当社を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いております。

このような環境の中、2031年3月期のグループ経営目標達成に向けて設定した「価値を共創し分かち合う」という基本的な考え方に基づいた以下の3つの重点戦略を推進しております。

①差別化戦略：当社ならではのプラットフォームビジネスの強化

お客様に選ばれ続ける企業を目指し、事業ドメインである美と健康の分野で当社にしか出来ない新しい価値をお客様に提供するため、当社の強みである魅力的な商品・サービス、価値や体験、大都市圏を中心とした店舗網、そして多くの顧客接点からもたらされるクローズドな情報などを活用し、ドラッグストアと調剤事業のシームレスな連携によるお客様の利便性向上と、当社ならではのB to Bを含む事業領域の拡張を進めております。

②投資戦略：価値共創に向けたビジネスインフラへの投資

当社のプラットフォームを支える基盤への投資を積極的に行うことで、収益の持続的な獲得を目指してまいります。具体的には、デジタル技術によるお客様の利便性追求と運営効率化、そして事業領域拡張に向けたシステム投資を積極的に図っております。また、大都市圏を中心とする重点エリアへの出店を強化するとともに、M&Aによる事業規模の拡大に向け、当社グループに参画しやすい体制を整備し、連合体構想を推進するため、2025年8月1日に中間持株会社である株式会社アンドカンパニーを新設、九州北部エリアにおいて調剤薬局・ドラッグストアを展開する株式会社新生堂薬局を同社に子会社化するとともに、調剤併設化を推進したことで、2025年12月末現在における当社グループの国内店舗数は3,604店舗(うち調剤薬局数1,103店舗)となりました。ASEANを中心とした新規国進出による海外事業の拡大としてマレーシアでの事業を開始したほか、人的資本への投資として、従業員にとって働きやすい労働環境、働きがい・やりがいのある環境の整備や、プロフェッショナル、グローバル人材の継続的な育成と従業員エンゲージメントの向上を図っております。

③社会貢献・還元：企業価値向上に資する持続可能な経営の実践

当社グループ理念・グループビジョンの実現と企業価値の向上に資する持続可能な経営に向け、ステークホルダーへの安定的な還元、コーポレートガバナンスの充実、環境・社会への対応(気候変動対応、地域医療サポート)、資本市場からの要請対応(資本コスト経営、最適資本構成検討)を行っております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における主な経営成績は次のとおりであります。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	801,520	839,340	37,819	4.7
営業利益	61,654	64,247	2,593	4.2
経常利益	64,918	67,807	2,889	4.5
親会社株主に帰属する四半期純利益	41,219	42,589	1,369	3.3

セグメントの業績概況について

<マツモトキヨシグループ事業>

マツモトキヨシグループ事業では、1億6,652万の顧客接点を活用し、店舗とアプリ・オンラインストアを融合する施策の推進や、ドラッグストアと調剤事業のシームレスな連携によるお客様の利便性向上、デジタル技術による運営効率化等、「差別化戦略」を推進しております。

P B (プライベートブランド) 商品においては、「matsukiyo」誕生10周年の節目として、初の体験型ポップアップストア「matsukiyo Beauty School」の開催や、業界初となる人気コスメブランドとのスペシャルコラボレーションを実施するなど、ブランド認知度および価値の向上に努めてまいりました。加えて、matsukiyo LABから成分美容に特化した新サプリメントシリーズ「BEAUSTER (ビュースター)」の展開を開始したほか、「免疫ケアシリーズ」や「MQURE (エムキュア)」といった既存ブランドのラインナップ拡充を図るなど、顧客ニーズを捉えた高付加価値な商品開発を継続して推進しております。

また、都市圏を中心とする重点エリアへの出店強化と、調剤併設化の推進、ASEANを中心とした新規国進出も含めた海外事業の拡大等、「投資戦略」を推進しております。なお、当社グループの新たな取り組みを象徴する店舗展開を推進するため、5店舗目のフラッグシップとして、マツモトキヨシ銀座5th店を全面リニューアルし、日本初、ドラッグストア初などの商品を展開し、没入型サイネージで先進的な顧客体験を提供する「GINZA FLAG」を開店いたしました。このような取り組みを通じ、さらなるブランドイメージの確立、他社との差異化を図っております。2025年12月末現在におけるマツモトキヨシグループ事業の国内店舗数は1,959店舗(うち調剤薬局数476店舗)となり、薬局経営支援サービスである調剤サポートプログラムの加盟店舗数は312店舗まで拡大いたしました。また、マレーシアに新規出店し、海外店舗数はタイ王国で37店舗、台湾で24店舗、ベトナム社会主義共和国で18店舗、香港で17店舗、グアムで1店舗、マレーシアで1店舗の合計98店舗となりました。

マツモトキヨシグループ事業では、都市部や繁華街、商業施設における人流の増加や、訪日外国人観光客の需要動向を取り込み、化粧品を中心に売上が好調に推移いたしました。

<ココカラファイングループ事業>

ココカラファイングループ事業では、国内における「差別化戦略」、「投資戦略」等の重点戦略に対して、マツモトキヨシグループ事業と同様の取組みを実行するとともに、アプリを活用した効率的かつ効果的な販促策の実施によりロイヤルカスタマーの醸成を推進しております。また、当期はさらなる収益性の向上を目指し、計画に基づき、人的資本の再配置や経営資源の最適化を目的としたスクラップ&ビルドを推進しております。2025年12月末現在におけるココカラファイングループ事業の国内店舗数は1,533店舗(うち調剤薬局数534店舗)となりました。

<アンドカンパニー事業>

アンドカンパニー事業は、2025年10月1日に、九州北部を中心に調剤薬局およびドラッグストアを展開する株式会社新生堂薬局を子会社化したことにより、当第3四半期より新たに報告セグメントとして追加いたしました。

同社の強みと当社グループのノウハウ・リソースを融合させることで、ドミナントエリアにおけるシェア拡大とお客様の利便性の向上を図ってまいります。現在は、商品調達やシステムの統合などシナジー創出に向けた具体的な検討および施策を推進しております。2025年12月末現在におけるアンドカンパニー事業の国内店舗数は112店舗(うち調剤薬局数93店舗)となりました。

〔国内店舗の出店・閉店の状況〕

国内店舗の出店・閉店の状況につきましては、次のとおりであります。

(単位：店舗)

	2025年3月 31日現在の 店舗数	子会社化等	出店	閉店	2025年12月 31日現在の 店舗数
マツモトキヨシグループ事業	1,938	-	46	25	1,959
ココカラファイングループ事業	1,561	-	15	43	1,533
アンドカンパニー事業	-	112	-	-	112
合計	3,499	112	61	68	3,604

＜管理サポート事業＞

管理サポート事業では、当社グループ会社を取り扱う商品の仕入や当社グループ会社の経営管理・統轄、その間接業務の受託業務、当社グループ会社からの配当金収入及び、外部への商品供給・施工業務・広告宣伝等を行っており、業務活動の範囲も拡大しております。

これらの結果、セグメントの業績は次のとおりであります。

		前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
マツモトキヨシ グループ事業	売上高	501,880	534,764	32,884	6.6
	セグメント利益	42,450	44,735	2,284	5.4
ココカラファイン グループ事業	売上高	296,842	295,613	△1,228	△0.4
	セグメント利益	18,575	17,918	△656	△3.5
アンドカンパニ ー事業	売上高	-	6,622	6,622	-
	セグメント利益	-	133	133	-
管理サポート 事業	売上高	504,294	524,393	20,098	4.0
	セグメント利益	20,589	18,238	△2,351	△11.4
調整額	売上高	△501,496	△522,054	△20,557	-
	セグメント利益	△19,961	△16,778	3,183	-
合計	売上高	801,520	839,340	37,819	4.7
	セグメント利益	61,654	64,247	2,593	4.2

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて234億13百万円増加して7,361億94百万円となりました。これは主に現金及び預金が125億79百万円減少したものの、商品が164億7百万円、売掛金が115億76百万円、その他の有形固定資産が44億27百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、145億28百万円増加して2,058億9百万円となりました。これは主に未払法人税等が84億10百万円減少したものの、買掛金が182億24百万円、その他の流動負債が47億63百万円増加したこと等によるものであります。

純資産につきましては、88億85百万円増加して5,303億84百万円となりました。これは主に、資本剰余金が121億33百万円減少したものの、利益剰余金が223億81百万円増加したこと等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の連結業績予想につきましては、2025年5月9日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	111,750	99,170
売掛金	64,469	76,046
商品	144,168	160,575
貯蔵品	1,050	1,029
その他	42,947	46,563
貸倒引当金	△70	△230
流動資産合計	364,316	383,154
固定資産		
有形固定資産		
土地	50,300	50,539
その他	60,578	65,005
有形固定資産合計	110,878	115,544
無形固定資産		
のれん	99,259	100,516
その他	28,777	30,137
無形固定資産合計	128,036	130,654
投資その他の資産		
投資有価証券	27,786	28,573
敷金及び保証金	61,200	62,104
その他	20,700	16,984
貸倒引当金	△139	△821
投資その他の資産合計	109,548	106,840
固定資産合計	348,463	353,039
資産合計	712,780	736,194

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	108,176	126,401
未払法人税等	16,611	8,200
短期借入金	1,187	1,510
賞与引当金	5,754	2,924
ポイント引当金	228	347
契約負債	3,575	4,672
資産除去債務	15	19
その他	27,091	31,854
流動負債合計	162,640	175,931
固定負債		
役員退職慰労引当金	—	337
債務保証損失引当金	146	97
株式給付引当金	308	363
役員株式給付引当金	39	39
退職給付に係る負債	31	374
資産除去債務	14,472	15,192
その他	13,641	13,471
固定負債合計	28,640	29,877
負債合計	191,280	205,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	22,051	22,051
資本剰余金	178,879	166,745
利益剰余金	338,939	361,321
自己株式	△24,946	△27,997
株主資本合計	514,924	522,120
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,927	7,206
為替換算調整勘定	△96	159
その他の包括利益累計額合計	5,830	7,366
新株予約権	43	43
非支配株主持分	701	854
純資産合計	521,499	530,384
負債純資産合計	712,780	736,194

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2024年4月1日 至2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2025年4月1日 至2025年12月31日)
売上高	801,520	839,340
売上原価	522,962	545,504
売上総利益	278,558	293,835
販売費及び一般管理費		
ポイント引当金繰入額	105	118
給料及び手当	80,289	85,380
賞与引当金繰入額	2,918	2,878
退職給付費用	1,685	1,795
地代家賃	55,631	59,291
その他	76,274	80,122
販売費及び一般管理費合計	216,904	229,587
営業利益	61,654	64,247
営業外収益		
受取利息	105	207
受取配当金	367	388
固定資産受贈益	275	345
発注処理手数料	1,362	1,532
情報提供料収入	449	485
その他	847	737
営業外収益合計	3,407	3,696
営業外費用		
支払利息	48	55
投資事業組合運用損	50	50
現金過不足	3	1
その他	41	29
営業外費用合計	142	136
経常利益	64,918	67,807
特別利益		
固定資産売却益	300	19
投資有価証券売却益	92	0
特別利益合計	393	19
特別損失		
固定資産売却損	64	24
固定資産除却損	196	274
投資有価証券売却損	89	—
店舗閉鎖損失	91	190
減損損失	203	135
災害による損失	※ 58	—
損害賠償金	—	65
特別損失合計	704	691
税金等調整前四半期純利益	64,607	67,135
法人税、住民税及び事業税	21,489	22,284
法人税等調整額	1,646	2,009
法人税等合計	23,135	24,293
四半期純利益	41,472	42,841
非支配株主に帰属する四半期純利益	252	252
親会社株主に帰属する四半期純利益	41,219	42,589

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	41,472	42,841
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△482	1,278
為替換算調整勘定	12	256
その他の包括利益合計	△469	1,535
四半期包括利益	41,002	44,377
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	40,749	44,124
非支配株主に係る四半期包括利益	252	252

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

第1四半期連結会計期間より、非連結子会社としておりましたMATSUMOTO KIYOSHI (HK) CO., LIMITEDが連結上の重要性が増したため、同社を連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結会計期間において、株式会社新生堂薬局の全株式を取得し子会社化したため、同社を連結の範囲に含めております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2025年5月9日開催の取締役会決議に基づき、自己株式5,399,800株の取得を行っております。この取得により、当第3四半期連結累計期間において、自己株式が14,471百万円増加しております。

(自己株式の消却)

当社は、2025年5月9日開催の取締役会決議に基づき、2025年6月10日付で自己株式5,399,800株の消却を行っております。これにより、当第3四半期連結累計期間において、資本剰余金が12,160百万円、自己株式が12,160百万円減少しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社は、効率的な資金調達のため前連結会計年度は取引金融機関13行と、当第3四半期連結会計期間末は取引金融機関13行と当座貸越契約を締結しております。これら契約に基づく、借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
当座貸越契約の総額	54,500百万円	53,900百万円
借入実行残高	—	—
差引額	54,500	53,900

(四半期連結損益計算書関係)

※ 災害による損失

前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

2024年9月の能登半島豪雨等の災害損失額について特別損失に計上しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	11,923百万円	12,378百万円
のれんの償却額	4,859	4,963

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	マツモトキョシ グループ事業	ココカラファイ ングループ事業	アンドカンパニ ー事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高							
外部顧客への売上高	501,676	296,806	—	3,037	801,520	—	801,520
セグメント間の 内部売上高又は振替高	204	35	—	501,257	501,496	△501,496	—
計	501,880	296,842	—	504,294	1,303,017	△501,496	801,520
セグメント利益	42,450	18,575	—	20,589	81,615	△19,961	61,654

(注) 1. セグメント利益の調整額△19,961百万円には、セグメント間取引消去△19,961百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額203百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキョシグループ事業」で60百万円、「ココカラファイグループ事業」で144百万円となっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	マツモトキヨシ グループ事業	ココカラファイ ンググループ事業	アンドカンパ ニー事業	管理サポート 事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
売上高							
外部顧客への売上高	534,448	295,577	6,622	2,692	839,340	—	839,340
セグメント間の 内部売上高又は振替高	316	36	—	521,701	522,054	△522,054	—
計	534,764	295,613	6,622	524,393	1,361,394	△522,054	839,340
セグメント利益	44,735	17,918	133	18,238	81,026	△16,778	64,247

(注) 1. セグメント利益の調整額△16,778百万円には、セグメント間取引消去△16,778百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として店舗を基本単位とし、遊休資産については物件単位ごとにグルーピングしております。営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び土地等の時価の下落が著しい資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額135百万円を減損損失として特別損失に計上いたしました。

報告セグメントごとの計上額は、「マツモトキヨシグループ事業」で37百万円、「ココカラファイニンググループ事業」で98百万円となっております。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結会計期間において、株式会社新生堂薬局を連結の範囲に含めたことにより、「アンドカンパニー事業」においてのれんが5,839百万円発生しております。なお、のれんは取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

3. 報告セグメントごとの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間より、株式会社新生堂薬局が連結子会社となったことに伴い、同社および当連結会計年度において新設した中間持株会社である株式会社アンドカンパニーを「アンドカンパニー事業」と定義し、報告セグメントとして追加しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

当社は、2025年8月13日開催の取締役会において株式会社新生堂薬局の全株式を取得し、子会社化することについて決議し、同日付で株式譲渡契約を締結し、2025年10月1日付で全株式を取得しました。

(1) 企業結合の概要

① 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社新生堂薬局
事業の内容 ドラッグストア事業、調剤薬局事業

② 企業結合を行った主な理由

新生堂薬局は、九州北部を中心に、健康にくらせるまちづくりに貢献するため、調剤薬局・ドラッグストアをグループとして119店舗展開し、健康寿命の延伸と社会保障費の抑制に努めており、昭和53年の創業以来「健康なくらしのお手伝い」という経営理念を掲げ、一つでも多くの笑顔を増やすことで、地域一番のヘルスケアステーションになることを目指しております。

このたび、2031年3月期を最終年度とする中期経営目標に掲げた連合体構想の実現、更なる事業規模の拡大を図るため、新生堂薬局の株式100%を取得し、同社を当社グループに迎え入れることといたしました。

③ 企業結合日

2025年10月1日

④ 企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

⑤ 結合後企業の名称

変更はありません。

⑥ 取得した議決権比率

100%

⑦ 取得企業を決定するに至った主な根拠

現金を対価として、株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年10月1日から2025年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	11,504百万円
取得原価		11,504百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 17百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれん金額

5,839百万円

なお、のれん金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

②発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力によるものであります。

③償却方法及び償却期間

18年間にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	7,186百万円
固定資産	5,685百万円
資産合計	12,871百万円
流動負債	5,254百万円
固定負債	1,952百万円
負債合計	7,207百万円

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報では、各報告セグメントの売上高を顧客との契約から生じる収益とその他の収益に分解し、さらに顧客との契約から生じる収益を、小売販売に係る売上高とそれ以外の売上高に分解しております。

前第3四半期連結累計期間（自2024年4月1日至2024年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	マツモトキヨシグループ事業	ココカラファイングループ事業	アンドカンパニー事業	管理サポート事業	
小売					
医薬品	152,008	123,658	—	—	275,666
化粧品	178,336	90,231	—	—	268,568
日用品	93,759	54,303	—	—	148,062
食品	47,514	22,429	—	—	69,944
その他(注)1	28,552	5,535	—	2,803	36,891
顧客との契約から生じる収益	500,170	296,158	—	2,803	799,133
その他の収益(注)2	1,505	648	—	234	2,387
外部顧客への売上高	501,676	296,806	—	3,037	801,520

(注) 1 卸売事業における売上高、広告宣伝に係る売上高等が含まれます。

2 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入が含まれます。

当第3四半期連結累計期間（自2025年4月1日至2025年12月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計
	マツモトキヨシグループ事業	ココカラファイングループ事業	アンドカンパニー事業	管理サポート事業	
小売					
医薬品	158,839	124,021	4,334	—	287,195
化粧品	196,183	91,783	1,029	—	288,996
日用品	95,196	51,145	742	—	147,084
食品	51,714	21,348	439	—	73,501
その他(注)1	31,066	6,630	59	2,522	40,279
顧客との契約から生じる収益	533,001	294,928	6,604	2,522	837,057
その他の収益(注)2	1,446	648	17	170	2,282
外部顧客への売上高	534,448	295,577	6,622	2,692	839,340

(注) 1 卸売事業における売上高、広告宣伝に係る売上高等が含まれます。

2 企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく不動産賃貸収入が含まれます。

3 中間持株会社である株式会社アンドカンパニーを新設したため、当該事業を「アンドカンパニー事業」と定義し、報告セグメントとして追加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. 補足情報

売上及び仕入の状況

(1) 事業部門別売上状況

当第3四半期連結累計期間の売上実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメント別	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
マツモトキヨシグループ事業	534,448	106.5%
ココカラファイングループ事業	295,577	99.6%
アンドカンパニー事業	6,622	—%
管理サポート事業	2,692	88.6%
合計	839,340	104.7%

(注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。

2. 中間持株会社である株式会社アンドカンパニーを新設したため、当該事業を「アンドカンパニー事業」と定義し、報告セグメントとして追加しております。

(2) 商品別売上状況

当第3四半期連結累計期間の売上実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

商品別	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	287,195	104.2%
化粧品	288,996	107.6%
日用品	147,084	99.3%
食品	73,501	105.1%
合計	796,778	104.5%

(注) 商品別売上状況は管理サポート事業を除いております。また、上記の金額には営業収入(テナントからの受取家賃及びフランチャイジーからのロイヤルティ収入等)は含まれておりません。

(3) 商品別仕入状況

当第3四半期連結累計期間の仕入実績を商品ごとに示すと、次のとおりであります。

商品別	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)	
	金額(百万円)	前年同期比(%)
医薬品	164,685	102.4%
化粧品	189,537	105.0%
日用品	103,902	95.2%
食品	63,526	103.0%
合計	521,652	101.9%

(注) 商品別仕入状況は管理サポート事業を除いております。